本助成金は「環境展示」に係る模造紙への印刷代の一部として使わせていただきました。

飯田 OIDE 長姫高等学校

電気電子工学科　野口　厚気

①研究目的

本校は県下初の総合技術高校として誕生し、今年で 12 年目を迎え、全日制 6 学科・1 学年 7 クラスで定時制を合わせると 900 人規模の県内でも大規模校の一つである。地域と連携した活動を活発に行っており、工業・商業を横断して産業に関わる様々な専門分野を学ぶ“地域協創教育基”を実施していることが特徴である。

授業展開

持続可能な社会への取り組み状況

・SDGs とは

・SDGs の取り組み状況

文化祭での環境展

地球規模で起きている問題を知る

・人口問題

・食料需要

・貧困問題

・格差

・生活の質

我が国の環境問題を知る

・地球温暖化

・企業・地方自治体など

環境問題の背景と解決策

・東日本大震災

・エネルギー問題

・災害廃棄物と放射線

クラス内発表（NIE と連携）

環境問題に対する

倫理的・道徳的責任

・「自己実現」新しいことを幅広く学ぶことで、自分の“やりたいこと”を発見する。

・「探求型学力」社会に存在する答えのない“問い”に立ち向かう力を身に付ける。

・「協創する力」多様な人々と共に、“革新的なアイディア”や“新たな付加価値”を生み出させる。これらを実現するために

・1 年次　地域知り“気づき”の力を養う「協創教育基礎」（普通教科内で実施）

・2 年次　地域の“今”を知り探求の基礎力を養う「地域ビジネスと環境」（2 単位必須）

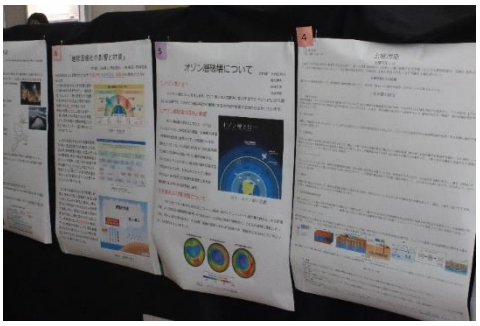
・3 年次　地域の課題を探求し、“協創する力”を養う「地域活性プロジェクト」（2 単位選択）

上記科目を、3 年間系統付けて学習し、“地域に貢献できる幅広い力”を養うようにしている。

この 2 学年の「地域ビジネスと環境」の授業では、ビジネスと環境保全の知識について、持続可能な地域社会の実現の視点で捉え、実践的・体験的な学習活動を行う。

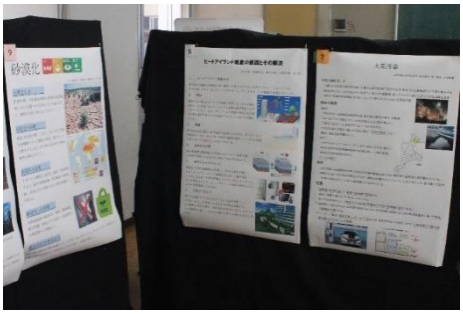
グループディスカッション、ディベート、グループワーク等のアクティブラーニングを通じ、他者の意見・考え方を聴くこと、自らの考えを伝えることを基本としコミュニケーション能力の伸長を図り、プレゼンテーション能力の自己開発が行える姿勢を身につけさせる。2 年生必須「地域ビジネスと環境」という授業で、私たちが抱える環境問題を各クラスで取り上げて文化祭で展示発表を行った。また NIE とも連携させて、クラス内発表への意識付けの一環として行った。

② 課題と成果



一昨年度から、環境展示をはじめ、文化祭で環境展を行ってきた。取組初年度は、全クラスが同じテーマ設定で調べたことを表現した。昨年度は、テーマを環境問題に広げたことで、さまざまな視点での表現があった。一昨年度、昨年度の２年間は班ごとで調べて、模造紙に手書きで発表するものとしてきた。

班で模造紙に書く生徒が固定され、班員の全ての人が関われていないことが課題となった。

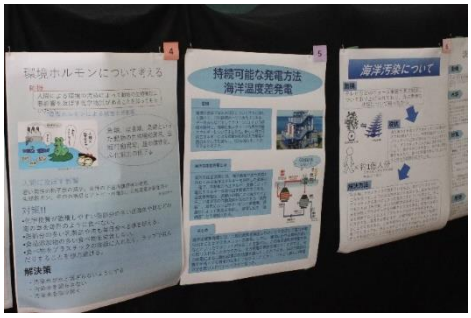


そこで今年度は、タブレットを用いて、情報を共有しながらタブレットを活用しながら役割（分担）を決めて編集していくことで、全ての班員が携われる形となった。また、今年度は模造紙に印刷して展示する形とした。

★Google フォームを活用したアンケート結果より

【機械工学科】

課題や取り組みがわかりやすく配置されていて良かったと思ったから。グラフを有効に使っていると感じた。



【電子機械工学科】

環境問題についてうまくまとめられていると思った。対策等がわかりやすかった

【電気電子工学科】

対策が具体的で実際に出来そうだったから

【社会基盤工学科】

知らないことばかりで読んでいて面白かったから。

【建築学科】

環境問題だけでなく自然の歴史についてもまとめられていてよかった

【商業科】

リサイクルと食品ロスを結びつけているのが興味深かったです。

環境問題だけでなく生態系の問題についてもまとめられていてよかった

今年度は、各クラスとも専門科の知識を活かした環境問題への取組み表現も多くなってきたと推察する。

③　まとめ

　各クラスから発表された展示発表を文化祭（7 月）で表現（発表）することで、他クラスから表現された、さまざまな考え方を吸収することができた。今年度は NIE の研究指定校２年目でもあり、環境問題を学習していく中で、主体的に、世の中の環境問題への関心を高めて、課題を解決しようとする力を養うことができた。(2 月)

Google フォームを使用したアンケート結果より、
・「自分でも何ができるかを考える良い機会になった。」
・「広い視点から情報がまとめられていた」
・「知らないことばかりで読んでいて面白かったから。」
など、文字やフォント・色・グラフ・図などにもこだわって、表現方法も学ぶことができた。文化祭で保護者の方や外部の方からのご意見をいただくことで、生徒のモチベーションの向上にも繋がっていると感じる。また、環境問題は今やどの「分野」でも取り扱う事象になってきており世間の関心度も高い。しかし、成果が「目に見えにくい」ので「環境」という言葉だけが先行し、良いことをしていると錯覚してしまう場面もある。さまざまな情報をさまざまな角度から考察し判断する力が、今後求められる力である。